

# ひかり野

佐賀大学附属図書館報 No.32



佐賀大学附属図書館蔵 洋学資料コレクション  
 「草木花実写真図」(前3枚)「蘭学階梯」(背面)  
 (解説は19-20ページ)



## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 「人類学者は走らない!留まらない!!～出会いは宝」 | 1  |
| 全学的にエコアクション21を認証取得する佐賀大学  | 5  |
| 厳しかった佐賀藩の教育―「文武課業法」にみる    | 6  |
| 第9回図書館総合展に参加して            | 8  |
| 平成19年度読書奨励企画実施報告          | 9  |
| 第7回図書館月間を開催               | 11 |
| 文献データベース等アンケート結果報告        | 14 |
| 佐賀大学機関リポジトリの充実を目指して       | 16 |
| 受入資料紹介                    | 17 |
| 図書館統計 平成16年度～平成18年度       | 21 |
| 人事異動                      | 24 |
| 図書館日誌 (会議・研修・来客等)         | 25 |

## 「人類学者は走らない！留まらない！！～出会いは宝～」

附属図書館副館長 たけ  
だ  
じゅん  
武 田 淳

思えば、人生には色々な出会いがある。  
時には心のアルバムをめくって人生を振り返り、記憶を更新するのもいいだろう。

その出会いとは人に限らない。それが、たまたま本屋さんで見つけたたった一冊の本であったり、道ばたでふと見つけたもの、あるいはふと目にした一枚の絵や写真であったりもする。耳に入ってきた音楽や漂ってきた香りがヒントになり、創造や啓発につながる場合だってありうる。五感で感じられたものが、思いがけない一つの創造を生むことだってありうる。受け容れる柔らかい感性と前向きな積極性さえあれば、外界から触発された刺激が、次々に広がっていく波紋のように相乗効果を生み出すものであろう。

出会いという人生の縁を一つ一つ積み重ねていく長い道のりが、人の一生なのかもしれない。まさに一期一会の連続ともいえる。多すぎて、荷崩れの心配もない思い出も付録として幾重にも重なっていく過程のようだ。しかし、今すぐにも声をかけたくなるような忘れ得ぬ人々もたくさんいるが、鬼籍に入ったためにもはや対話ができない方々も多くなっていく現実是否めない。

職業柄、人類学者の端くれとして世界のあちこちに出かけることが多い。出会った人は数知れないが、それは国内においてもまったく同様である。こうした縁で印象に残り、その後、長く付き合いをさせてもらうのは、現場の空気を生々しく伝えてくれる一次産業などに従事する人が多い。心も体も着飾っていない人々との付き合いは、いつも心おきなく楽しい思い出をつくってくれる。

中学生だった頃、いつも国語を担当していたS先生は、授業が始まる前に分からない意味や漢字を自分で調べるようにと生徒一人一人に新潮社の国語辞書を渡して自習させることが多かった。そんな

なある日、菊池先生が代わりに見えた。教室に入るや、<sup>みよしなつじ</sup>三好達治の「草千里」という詩を自ら読んだ。情感を込めて朗読される詩に、まだ見たこともない雄大な阿蘇の情景に誘われたのは、私一人だけではなかつただろう。朗読を通して体感する世界を初めて知った。菊池先生は二、三回授業を担当しただけだが、小説、詩、俳句や和歌といった文学は本来、朗読してこそ、生きた力を与えてくれるものだとつくづく思った。それも中学生という、人生でもっとも多感で初々しい感性にみなぎる時代に、国語という授業を肌で感じさせてくれた先生との劇的な出会いは幸運であった。

それが、長じて物を書くようになり、母国語たる国語の大切さを痛感するばかりか、我が国語力の貧困さを嘆くことが多くなった。どもりで国語の時間が大嫌いだった自分が、もっと早くから菊池先生のような先生に教わっていたら、国語がもっと好きになり、読書の喜びをも教わったかもしれない。もしもと言うことが許されるのなら、菊池先生の寺子屋でもあったら、喜び勇んで門をくぐっていたにちがいない。

後日、菊池先生は歌人だったと耳にしたが、なるほどと頷けた。

中には爾来40年の付き合いをさせてもらっている方もいる。五島列島・福江島の西に浮かぶ嵯峨島に住む<sup>こいでさだむ</sup>小出定さんである。彼は隠れキリシタンの系譜を引き、男女群島を漁場として延縄漁にいそむ漁師さんである。今は佐賀の地からアクセスしやすくなったこともあり、兄弟のような間柄になっている。毎年のように地先の海で採った新鮮なサザエ、アワビやウニ、時には地元でメプトと呼んでいるメダイなどが宅急便で送られてきたものは、学生ともども五島の海の幸に舌鼓を打つのが恒例になっている。

佐賀大学に赴任してから知己を得た出会いは、たまたまある講演会が済んだあとの二次会の酒席

であった。松尾金次さんは、戦後二、三年、油田の発掘のために山形県の庄内で過ごした若い時分の思い出を、東北内陸部のズーズー弁の訛りが残る我が語り口に重ねたことがきっかけになった。それ以来、大学にも近いお宅をちょくちょく訪ねては、佐賀の方言、暮らしや社会など、また地元の人からじゃないと教われないような佐賀学（インナー佐賀）を惜しみなく語ってくれた。また、あちこちと案内してくれたばかりか、解説までしてもらったおかげで、焼き物の審美眼までできたえでもらった。そして道祖元神社を祭る毎月朔日（1日）と中日（15日）の朝には、松尾さんの家によばれては、家族の皆さんと一緒にニッポンの朝をご馳走になるようになる。いつしか松尾家ではまるで「スーパー長男」として自由に振る舞えられるようになった。

松尾さんにたくさん紹介してもらった地元の方々の中に、染色画家の小川泰彦さん（前・佐大教育学部教授）もいる。有明海に注ぐ滞り干潟の海、そして玄海に浮かぶ島々を独特な手法で描かれる先生のアトリエに二人で訪ねて、素晴らしい作品の数々を目の当たりにしたことがあった。

2005年6月、松尾さんが連れて行ってくれた方に、佐賀を代表する随筆家・歌人の草市潤さんがいる。浴衣掛けで、何かはにかむように玄関先に見えた草市さんと奥さんは我々を暖かく迎え入れてくれた。歌人・中島哀浪の次男になる人である。

「くすの木の わか枝ゆすりて このあした  
こゑあけやまぬ かちからすあり」と詠んだ哀浪（1883-1966）は、シンガポールで戦死した長男を嘆き、その哀しみを歌に託しているだけでなく、戦争の愚を、そして反戦の意志を暗におわせた歌である。佐賀・久保泉生まれの哀浪が、九州を地盤に柿の木をテーマにした歌を詠んでいた頃、東京ではアララギ派を結成し華々しく活躍していた斎藤茂吉（1882-1953）がいた。小生と同じ山形市、その郊外にある上山・金瓶生まれの茂吉は、日中戦争や太平洋戦争に愛国の心情をも戦争の歌に詠んだ。

松尾さんの自宅で旧制龍谷中学校のアルバムを見せてもらったことがある。戦時中でもあったた

めに軍服を着けた教官一同が並んだ写真に哀浪の姿があった。哀浪に国語を習った松尾さんは、山形の菊池先生のようにきつと実りある授業を受けていたと想った。たまたま小生が鹿児島からの帰路、熊本・湯前ゆのまえに出かける途中で、人吉城址の球磨川に面したところで「かわちどり 鳴けば見下ろす 球磨川の 瀬の音たかし 霧のそこより」と詠んだ哀浪の歌碑を偶然見つけた。佐賀で詠んだ「かちからす」といい、球磨川の「かわちどり」といい、いずれも野鳥をワンポイントにして詠んだ佐賀の歌人に親近感を抱きはじめて矢先だったこともあり、その次男の方にお会いできる機会がめぐってきたことに内心驚いた。

そして草市家を辞すときに、東京・三月書房から出版された「やくもない話」（2001年刊）、「卵と無花果」（'02年刊）と「随筆 下駄供養」（'05年刊）の高価な単行本三冊をサイン入りでいただいた。コンパクトなサイズ、装幀の愛らしさと帯紙の上品さもさることながら、随所にたっぷりユーモアがきいた佐賀弁がまるで水を得た魚のように生き生きと泳いでいる。バタバタとせこいことばかりが流行る今日の日本から消えつつある、美しくも味わい深い言葉や方言がいっぱい詰まっている。下駄供養の本文の一章「日々のありよう」には、彼の普段のライフ・スタイルが、豊かな天性の感性ともども発露している。

その草市さんが昨年10月、市内のギャラリー「憩い」で個展を開いているというので早速、出かけてみた。腰のあたりに刺繍がはいった、なんともハイカラな黒地のパンタロン（裾広がりのズボン）を着けていた草市さんは、まるではにかみ王子のようであった。初対面のときもそうだったが、とてもシャイなお方なのだ。日々の雑感を織り込んで、細い線にところどころインクを滲ませるように描いたペン画は実に柔らかく、何とも心が暖まる。絵の下に添えた自筆の短いコメントも実にいい。また佐賀在住の書家・久保椋佳さんが彼の歌の文字を表装し、掛け軸にしたものは絵とマッチしているばかりか、画を際立たせていた。その後、彼が郵送してくれた新刊の「顎の話」には、幼少のころに御母堂と一緒に撮影された写真が一枚あった。ヤブランを描いた本のカバー絵は

地の草色に萌えているかのようだった。

前年に奥さんを亡くされた草市さんが、筆を休めたときにその無聊に任せてペン画を走らせたような気がしないわけでもない。しかし、絵にも素晴らしい才能を秘めていたことになる。無菌培養のまま成長したかのような芸術家、そして天真爛漫の作家が佐賀に住んでいることを誇りとすべきだろう。

後日、画廊の主の中島邦子なかしまくにこさんに伺ったら、あのパンタロンは岐阜在住のデザイナー丹下さちえたんげさんの手によるブランドものだった。

たった二行の表現のために現地に赴き、取材を重ねる吉村昭よしむらあきらという好きな作家がいた。一昨年7月に亡くなってしまったが、奥さんの津村節子つむらせつこさんも作家である。単なる歴史記録やフィクションの域を越えて、事実の実際性を確認する作業を兼ねながら、現場に足を運ぶ。取材を終えて、飲み屋で酒を傾けている時によく刑事さんと間違われたというから面白い。しかし、産み出された作品には、鋭い観察力に加え、人間味と命の重みを感じさせる作品が多く、作家冥利に尽きる業と評価している。これまで一連の彼の作品を通して、並々ならぬ才能と繊細さと人柄に出会えたことに感謝している。

吉村の文も草市さんの文も文筆を生業とする作家ならではの魂の結晶である。我々凡人がたとえ、彼らのツメの垢を煎じて飲ませてもらっても、所詮彼らが描きあげるきらきら輝く文章の域に到達できないのは、自明の理である。天性の感性が織りなす分野であるから、所詮、いくら逆立ちしてもかなうはずはないのである。

「袖振り合うも多生の縁」とはよく言われるが、出会いを求めて、旅に出たくなるのが人類学者の常だ。いろんな出会いがあるからこそ、旅に出るのだろう。それも、できるだけ足ののろい乗り物を選んで出かける旅は、足が動くあいだ続けたいと常々思っている。乾いた心の栄養剤になる、新たな出会いとの巡り会いが多いからである。あまりにも速い乗り物だったら、道中、目で見えるものも見ると、また見たいものも見失

ってしまいかねない。フィールド・ワーク（現地調査）をしないで安楽椅子に座ってあれこれ思索に耽る人類学者を「アームチェアー・アンソロポロジスト」と揶揄する。定着（定住生活）は農耕民の生業基盤になっているが、人類学者は生涯、狩猟採集民のように遊動しながら野生の世界を、未知の地を駆けめぐりたい。それも現代版松尾芭蕉まつお ばのような過客として自分の足で大地を踏みしめ、思いをめぐらし、また人や自然を自らの目線で観察しながら、じっくり考現したいというのが本音である。

かつて那覇と八重山を結ぶ船の二等室で聞いた蛇皮線サンシンの音色は、これまで慣れ親しんできた日本の音階とはかなり異なっていた。沖縄民謡と初めての遭遇は、その後、沖縄との長い関わりを生むことになり、琉球大学に17年あまりお世話になってしまった。まるで西表島の「なんた浜」に打ち寄せる波に船足ののろさを任せながら、沖縄の滝廉太郎れん たろうと呼ぶに相応しい宮良長包みやら ちようほうの南国の美しいメロディー、そして中山晋平なかやましんぺいや山田耕筰やまだ こうさくに匹敵する普久原恒勇ふくはらつねおさんが誘う唄の世界に浸るのもこの世の幸であろう。

湯の中でふと話したことがきっかけで見知らぬ方々と縁を得て、色んなことを教わったことも多々ある。まさに裸の出会いが思わぬ縁になった。もっと教訓を得ようと親交を深めようと試みたときには、時すでに遅く、小倉在住の建具職人の三浦平吉みうらへいきちさんは亡くなられていた。至極残念なかぎりだったが、人生の宿命、生きとし生けるものの定めとして諦めるしかない。

生前、親父から教わった「馬には乗ってみろ、人には添ってみろ」という言いまわしが身にしみている。何事にも実際に自分で進んで実践してこそ体得できるものが、この世に数多くあることを諭し、人生万事、前向きな積極性こそ肝腎であると教えているのだろう。

人間には死ぬまで分からないままの未解決な事象は多いはずだ。未完のままにこの世を去ってしまうのが、人、一人一人の人生っていうものかもしれない。それも積み残しの多いままに。

人生の師との遭遇や出会いは、自分の身の回り

のどこそで起こりうるものであるから、心のアンテナだけは常に積極的に張っておくことにしたことはない。

昨年8月に三週間、中国の渤海湾の漁撈調査に出かけた折、営口の片田舎である田庄台での出会いも新鮮である（2008/2「佐賀大学有明海総合研究プロジェクトニューズレターNo.5」；<http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/download/news5.pdf>）。

（前略）調査から宿に帰るのを待っているかのようにピカピカと光る黒塗りの車が一台宿の前にとまっていた。もしや公安関係の人じゃないかと一瞬心を横切った。多分、宿の叔母さんが伝えたのかもしれないが、風の便りに風変わりな日本人が駅前の宿に投宿していることを聞きつけてやって来たのは、任徳征氏であった。日本人に案内したいところがあつたようで早速、彼の車に乗せてもらって出かけた先は、なんと戦前の昭和16年12月に東京・荏原製作所が製造した「ゐのくち式ポンプ」8基が稼働している現場であった。河口に近い川の水を汲み上げて、遼寧省営口市大洼鎮（日本の県に相当）に住むおよそ7万人近い人々の田圃に灌漑用水を供給している。それを管理する水利局の局長である任さんは、日本人が中国のために残していったくれた日本製の機械が、故障一つなく今なお稼働していることを誇らしげに熱心に語ってくれた。

観光地でも何でもなし、まさかこんな何もなしのところに日本人がやって来たことに彼はきつと驚いたにちがいない。別れ際に今度、ここに来るときは是非、連絡して下さいと自分の携帯番号を教えてくれた。拝金主義に走る中国の世界でこんな立派な紳士にお目にかかれたことが内心とても嬉しかった。また中国で行ってきた日本の過去の負債が目立つ中で、現地に残してきた日本製のことを破壊することもなく、大事にちゃんと機能させている任さんたちの努力にも頭が下がった。同時に我々日本人の先輩たちが頑丈で素晴らしい機械を製作してくれたことに心が弾んだ。（後略）

この三月まで佐賀大学附属図書館副館長を二年間、勤めたことで図書館の我田引水をするわけではないが、「自殺したくなったら、図書館に行こ

う！」とは、アメリカの図書館のポスターに由来すると兵庫県芦屋のこまきまさなお小巻正直さんが教えてくれた。ピストルを自分の頭に突きつけている男と、その周囲に本がたくさん積まれている絵があり、その絵の下には If you feel like shooting yourself, don't. Come to the library for help in stead. というキャプションが入っているという。このポスターは元々、たけうちきとし竹内慈さんが図書館問題研究会・宮城支部で紹介し、それが滋賀県東近江市にある市立能登川図書館長のの とがわ才津原哲弘さんを経由して、京都でホームスクールと出版社・論楽社の共同代表をされているむしがむねひろ虫賀宗博さんの頭の中で化学反応して生まれたフレーズである（「世界」2005年8月号）。とにかく図書館ほど日頃の喧噪から逃れ、自由に自分だけの世界を謳歌できる場所はない。蔵書された本やビデオなどを通して、先人ばかりでなく、現世の人や物、知恵、美や感性などとの出会いが盛りだくさん用意されている場所でもある。地域文化の拠点たる図書館に、今様「駆け込み寺」として命の糧を得る場を見つけるのもいいだろう。

ちなみに小巻さんとは、1995年1月17日早朝に起こった阪神・淡路大震災の折に縁を得て以来、大切な身近な友人になっている。ライフ・ラインズが全て断絶した三ノ宮の我が家に住めなくなったために当時、彼が所長をされていた富士ゼロックスの関西地区研修所であるスペースアルファ神戸の一室をあてがっていただき、身銭一つ払わずに3カ月近くホテル住まいをさせてもらった。生き字引のごとく博学であるばかりか、幼少から絵描きさんを夢見ていたほどの才能をフルに発揮して今や紙芝居創作に執念を燃やしている先輩とは、爾来、国内を含め、タイ、ラオスや韓国などを一緒に旅をもし、いつも人生の深さをことごとく教えてくれる師でもある。

出会いの旅はこれからも続くのだが、「一期一会」、まさに目に見えぬ神に与えられた限りある人生を大切に全うしたいと思う老境に達したようだ。凡人の独り言と聞き流してもらえれば、幸甚である。（文中、物故者は敬称略）

## 全学的にエコアクション21を認証取得する佐賀大学

理工学部教授 みや  
宮 じま  
島 とおる  
徹

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第4次報告書やアル・ゴアの「不都合な真実」によって地球温暖化の問題がにわかに取り上げられるようになった。また、急激な原油高によって物価の上昇が顕著になると、いやがおうでも化石燃料に依存した社会構造のもろさを実感せざるを得ない。コンピューターシミュレーションによれば、早急に低炭素社会へと移行しないと今世紀末には悲劇的状况が起こる事が予測されている。どうも、これまで暗黙のうちに信じられてきた右肩上がりの“成長”には“限界”があり、革命的な変革が求められているようである。しかも、2010年ころまでに断行しなければ、人類は地球温暖化の悪循環に入り込んでしまい、もとは戻れないかもしれないという。いまや“人類の選択”の時期であると警告されている。

このような大きな変革期において“教育”の果たす役割は極めて大きい。高等教育機関である大学があらゆる局面で“環境教育”を主導する事が求められている。特に地方大学が地域独自の環境問題に関わり、地域の市民の意識を牽引できるかが、その地域社会の変革につながると言われている。法人化以降、佐賀大学は様々な地域貢献事業を行ってきたが、特に、“環境”の面での実績は豊富である。2001年度より佐賀市と連携して開講してきた“佐賀環境フォーラム”はその一例であるが、佐賀地域独自の環境活動としていまや全国に知られるようになってきている。この活動の中で市民と学生によるワークショップ“佐賀大学版環境マネジメントシステム研究”が継続的に行われ、その成果として、このたび、佐賀大学は国立大学法人として全国で初めて全学的にエコアクション21（EA21）の認証取得をすることになった。2006年12月25日のキックオフ宣言以来、1年間の試行運用を行い、2008年1月に最終審査を受け、今、審査結果待ちの状態である。EA21とは、国際標準化機構による環境マネジメントシステムISO14001の国内版であり、中小企業、行政

機関、学校等を対象として環境省が策定したものである。この度の佐賀大学の受審は、2007年8月に出された大学版マニュアルに従って試行した初めての事例となるので慎重に審査が行われた。佐賀大学の特色は、医学部や病院を始め、理系学部を含めた全ての学部が部局ごとにEA21委員会を設置し、PDCA(Plan-Do-Check-Action)のサイクルを構築し継続的改善を図っている点、更にこれらを佐賀大学全体で統括してPDCAをまわしている点にある。

佐賀大学のメリットは中規模大学である事である。総合大学として十分に大きなマスを持ちながら、学部間また大学と地域社会の間の壁が低く、機動性を発揮できる、時代の変化に対応した柔軟な動きがとれるというメリットである。一方、デメリットしても中規模大学という点が挙げられる。歴史や豊富な資源に恵まれた大規模大学でないにもかかわらず、国家による保護を夢想し、怠惰をむさぼっていれば早晩消え去る運命にある。

この度のEA21認証取得に向けた試行運用の結果、明らかになった2つの問題がある。まず、1) 佐賀大学には准構成員である学生を含めると1万人の人々がいる。全ての関係者に佐賀大学の環境方針を伝え、活動計画に同意を求めるためには、様々な局面での工夫が必要である。特に、今後は留学生への周知徹底を急がなくてはならない。次に、2) 大学から出される廃棄物の処理に関するマネジメントシステムがはなはだ不完全で資源循環が機能していない。いずれの問題も、関係者が広範にわたっており、全体の合意形成に工夫を要する点が共通している。同様の問題は、社会全般にも見られ、これが環境問題の本質のように考えられる。逆に、様々な主体が連携する事が解決の糸口のように思われる。この度の佐賀大学のEA21認証取得は佐賀大学が地域を牽引する大学としての存在意義を示す絶好の機会であると考えている。

## 厳しかった佐賀藩の教育――「文武課業法」にみる

文化教育学部教授 いく ま ひろ のぶ  
生馬寛信

教養教育のネット授業「チャレンジ佐賀学」の担当総括者として、開設以来受講者全員のレポートを読んできた。講義では幕末の佐賀藩と人物をとりあげているが、聴講学生の大半が、「佐賀にこんな豊かな歴史があり、人物が輩出しているのをこれまで知らなかった」と感想を書く。「佐賀はかつて教育県（藩）だった」ともいわれる。

「何もないことの裏返し」だと揶揄されることもあるが、幕末期の佐賀は、正真正銘、「教育最先進地」だった。幕末維新时期に国内最先端の科学・技術と最強の軍事力を誇り、維新後、佐賀人たちが、政治、経済、科学技術、学問、芸術など多方面にわたって、日本近代化に貢献したが、その基盤形成は佐賀の教育にあった、と行って過言ではない。

佐賀藩では、本・支藩、大配分を含めて、徹底して厳しい人材教育を行っていた。徹底性と厳格性を典型的に示すのが、「文武課業法」という法令の存在である。

いわゆる「文武課業法」が適用されたのは、本藩の侍が修学した藩校弘道館の生徒である。もう一つ別に、佐賀藩親類同格の多久家の家来たちが修学した東原庵舎生徒の文武課業法がある。制定の趣旨と厳しさは共通しているが、文言も到達目標もかなり異なり、弘道館の方が高度である。

弘道館は1781(天明元)年、文武両道に秀で、佐賀藩の御用に立つ人材を育成することを目的に創建された。第10代藩主鍋島直正の時代、佐賀藩は大変革を遂げ、国内最先端の西洋科学技術・軍事技術水準に到達するが、直正は藩政改革と一体に弘道館興隆政策を実行した。1840(天保11)年、弘道館は文武総合の一大学園として拡張新建された。これを機会に手明鍵以上の本藩侍の青少年男子は、弘道館修学が強制され、10年後には、さらに、文武課業法によって学修の到達目標

が設定され、達成が義務づけられることになった。

本藩の文武課業法とはどのような法令か。

これは1850(嘉永3)年8月に達せられた。前文に、

「御家中文武稽古方に付て今般左之通課業被相定候間、式拾五歳迄に右之課業相済候通、則今より人々一際勉励出精有之候様、乍其上も右課業不相遂面々は、無據出米之被及御沙汰儀候」、とある。

つまり、努力目標ではなく、罰則規定付きである。

到達目標は、石高一佐賀藩では現石で表示一30石以上は、文学は独看、武芸は剣か槍のどちらかの免状、30石未満手明鍵までは文学出精昇達、剣か槍の目録とある。文武両業達成で課業済、一方だけでは半課業済で、これには出米半高を科す。課業が済まなければ役方には就かせない。課業が済んでも役方に就くのは26歳以上からである。

文学とは当時は儒学のこと、現代風の履修でいえば、出精昇達は大学で漢文学や中国哲学の単位を全て取得し、下級生の素読指導やゼミでの報告も求められる。独看になると経書や歴史書をもとに卒業論文が書ける程度に達し、文章力や討論能力も求められる。試験で100点をとるだけではだめである。文武両業だから全達成は並大抵ではない。達成できなければ家禄を減額され、役方に就けない。生活に困るし、自分の家の恥でもある。「あの家の格は高いが、惣領息子の出来が悪い」と軽侮される。頑張らざるをえない。文武課業法を定めた藩は水戸藩など他にもあるが、佐賀藩の達成課題と罰則規定はどこよりも厳しく、「佐賀侍のクソ勉強」といわれたゆえんである。

当時佐賀藩は、並行して西洋科学技術の本格的な研究と実用化、医学の蘭方化を進めていた。そこで、1855(安政2)年、文学は経書でなくて蘭学でもよい、武芸は砲術でもよい、武芸2編があれば文学はなくてよい、とするなど現実的・実用的に改訂した。文武課業法に蘭学や砲術まで含めた藩があるのを、私は知らない。

しかし、厳しい文武課業法は弊害が現れ、「ただ課程を遂げるまで稽古すればよい」などと心得違いをする者があり、かえって軽薄の風に移る、として、1859(安政6)年、この法令は廃止となった。弘道館内では、学職たち経学派と枝吉神陽ら少壮気鋭の学者が唱え若い学徒たちの支持を得た史学派の対立が表面化していた。締め付けの厳しい弘道館の学風に反発した大隈八太郎は、喧嘩騒動を起して退学し、蘭学寮に入学し直している。

文武課業法による罰則を受けたものはなかったとされる。しかし、実態は誰もが達成できたのではないらしい。記録によると、1858(安政5)年で、30石以上の上・中士は全課業済20%、半課業済45%で、3分の1は未達成とある。30石未満の下級士では全課業済47%で、未達成は5分の1程度、義務ではない文学独看の達成者数が上・中士に匹敵する。規定は厳しかったが実際は厳格な処分をしていない、下士ほど文武に研鑽した、といえるだろう。身分家格にとらわれることなく、学問によって出世の道が開ける、と考えたからであろう。文武課業法は人材養成と人材選抜の機能をもっていた。厳しい門閥主義は崩れかけていた。文武課業法廃止後も、何かにつけ、文武の達成状況を役方選抜の根拠としたことを示す記録が残っている。軽輩が後に頭角を現わすきっかけは弘道館にあった。

大隈は後年、文武課業法は「生徒たちを鋳型にはめ、俊英を凡人にした」、と厳しく非難している。そういう面もあろう。しかし、藩士全体に高水準の経書読解能力、文章力、討論能力を習得させたことは疑いえない。経書解釈は朱子学によったから、次の時代の科学的・合理的な新学問を受

容できる素地や論理力が形成されたともいえる。悪口を言っている大隈八太郎も、少年時代、勉強部屋の梁に頭をぶつけて眠気を醒まし、勉学に励んだのである。現在でも、2007年夏の全国高校総体成功や佐賀北高校甲子園優勝など、佐賀の教育は、時に大噴火する底力を持っていると、私は信じている。

※ 文武課業法の本藩関係の主な史料は、『鍋島文庫』（財団法人鍋島報効会所蔵、佐賀県立図書館寄託）、多久邑関係は多久家文書（多久郷土資料館蔵）、によった。

※※この小文は、図書館講座 生馬担当「江戸時代佐賀藩の教育」（平成19年11月14日）の内容の一部である。

## 第9回図書館総合展に参加して

佐賀大学附属図書館医学分館

まさ おか みなこ  
正 岡 美奈子

昨年11月7日から3日間にわたり、パシフィコ横浜で開催された『第9回図書館総合展』に参加してきました。

久しく九州エリアから出たことがなかった私。「大都会『横浜』に出張！？果たして大丈夫か…?!」とドキドキしながら、とりあえず飛行機に乗り込みました。

「ま、何とかなるでしょう！」と半ばあきらめの境地の中、たどり着いた会場『パシフィコ横浜』。

果てしなく広大な体育館といった様子。そこに最先端の図書館関連のソフトや機材・グッズが所狭しと展示されていました。各会社の展示ブースはどれも興味深く、目を引くものばかりでした。なかでも面白かったのが、最新の「ライブラリーシステム」を紹介したブースです。これは図書館で働く者として、大変興味深いものでした。図書館展で案内していたこのシステムは、現行する図書館の本の無断持出し防止装置がはるかに進化したもので、もし本の無断持出しが行われたら、その本のタイトルなどの詳細なデータが瞬時にカウンターの図書館員に送られるというシステムで、入口で警報アラームが鳴ったら、「今、〇〇というタイトルの本をお持ちですよね！」とデジタルに館員が問い詰めることができるシステムだそうです。図書館を利用される方が無断持出しを行わなければ、まったく必要の無いシステムですので、これをお読みの皆さま、どうかご協力お願い申し上げます！！

図書館関連商品の見本市といった感じの展示ブースコーナーのほかに、図書館展では、様々な講師の方を招いてのフォーラムもあり、そちらにも参加してきました。

参加したフォーラムのなかで、特におもしろかったのは、仁上幸治 講師（早稲田大学図書館司書）による『図書館グッズが利用者と館員を変え

る！ーイメージ戦略の先進事例ー』というものです。仁上講師のトークはプロの囃家さんのようで、最初から最後まで参加者を飽きさせることはありません。朝一番のフォーラムでしたが、立ち見も出るくらいの大盛況ぶりです。仁上講師の話の中で、特に衝撃的（!?!）だったのが、アメリカ図書館協会（ALA）から発売されている『米国カリスマ司書フィギュア』の存在でした。「そんなの、だれが買うの??」と心の中で叫びながら、仁上講師のパワーポイントから目が離せませんでした。すっかり、図書館の一利用者になって、素で聴き入ってしまいました。

日本の大学図書館では今、ひとつの大きな流行として、“学生さんとコラボする”というムーブメントがあることが図書館展に参加して分かりました。「大学図書館がいかにか、学生さんたちに愛される（＝利用される）図書館に変貌していくか！」が大きな流れであることを痛感しました。佐賀大学でも平成18年度から「学生選書活動」を企画し、今年度は企画・活動の一環として、福岡市の書籍店へ「学生選書ツアー」を実施しました。おかげさまで、今年度の活動は盛況のうちに終了しました。

今回の図書館展に参加して得た様々な知識や情報をフルに活用し、佐賀大学図書館を利用される方々へのサービスとして還元できるよう日々努めて参りますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。

## ○ 読書奨励企画 ○

## 「学生選書委員の活動ってどんなの～っ?!」

読書奨励企画は平成18年度から行っていますが、平成19年度はさらにバージョンアップしました。主に変わった点は、公募によって選出された学生選書委員16名が、1年間を通して活動するという点です。書店で行う選書ツアーを紀伊国屋書店佐賀店（8月22日）とジュンク堂福岡店（10月31日）で行い、他に佐賀大学生協での選書、オンライン選書などを行いました。大半の学生選書委員の方が「またこういう機会があれば参加したい」と言われています。選ばれた図書は328冊になり、図書館にすでに所蔵があるものを除き全て購入され、12月から本館・医学分館に配架されています。ディスプレイも楽しく工夫されており、学生選書委員自身によるポップもあります。みなさん、是非見に来てください。



学生選書の活動の感想を委員2人からききました



学生選書委員として働くことができ嬉しかったです

経済学部 金国花

日本に来て初めてこのような活動に参加し、いろいろな本を見られたので良かったです。本はもともと好きで比較よく読みますが、どうしても自分の好きなジャンルに偏り、それで満足してしまいました。選書ツアーを通じていろいろな本やいろいろなジャンルを好む人と会うことで自分の好奇心の幅を広げる事ができてとても良かったです。

このような選書の機会は初めてで、皆でバスで行って、本を吟味するというスタイルが新鮮で楽しかったです。遠方まで足を運べたのはとても満足でしたが、時間がぎりぎりだったのでもう少し本を選

ぶ時間があればと思いました。自分で本を購入するときとはまた全然違うし、普段見ないコーナーへも行き、いろいろな本の存在を知ることができました。本の数が今までの何倍も多かったので、考えていたような本を見つけることはできませんでしたが、面白い本がたくさんあって、選ぶかどうかいろいろ考えられて良かったです。

学校での日本語の勉強以外に、日本語能力試験とか自分の日本語のレベルをアップするために図書館を利用する人が多いので、分かりやすく説明がついてある本などを選ぶことができよかったです。自分だけではなくいろんな人に役に立つ本、面白い本を選び、自分が読むジャンルだけでなく、もっとたくさんの本を読むきっかけになりました。

## 本との関わり

文化教育学部 磯辺孝徳

今回私が学生選書委員として活動するうちに気づいたのは、自分がどれだけ本と接してこなかったのか、そのことによってどれだけ人生を損しているかということでした。正直私はあまり本を読む方ではありません。なぜかというと、他のことで忙しかったというのがありますが、なかなかお金を払って買ってまで本を読もうという気にはなれなかったからです。しかし今回、お金を気にせず本を選べるということで私の視野は広がりました。本屋で普段ならほぼ立ち寄ることのないコーナーにも足を運んでみると、今まで見たこともないような本や、自分が興味を持てる本で溢れていました。買う買わないは別にして、皆さんもぜひ本屋をゆっくり探索してみてください。これまで見えてこなかった何かが見つかるかもしれません。そういう活動無しに、自分に合うべき本に出会えなかったらそれは人生においてかなりの損失だと思います。

私はこれまで学校の図書館は調べものをするときか、勉強をするとき以外はあまり利用していませんでした。図書館の蔵書は古いものが多く、今の時世を著したものは少ないという先入観もあり、調べものも最近はインターネットに頼りがちです。しかし、本にはインターネットにはない良い面がたくさんあります。情報量と見易さで言えば断然本の方が上です（あくまでわたしの考えですが…）。これまで私はそんなに本を薦めてはいませんでしたが、この経験を機に本の推進派になりました。さきほど新しいものは無いと先入観があったと述べましたが、図書館には我々が選んだ本の他にも、雑誌など最新なものはいろいろ置いてありました。だから十分に利用する価値はあるでしょう。世の中には自分が興味を持てる本、ためになり読むべき本などが溢れています。しかしその中の大部分の本は我々が読むことはありません。私は学生選書委員の活動によっていくらかの素晴らしい本に出会うことができました。幸運にも佐賀大学の図書館では自分で購入依頼もすることができます。それらの制度を利用したりしてでもいいので、皆さんも自分なりの本との関わり方を見つけて実践して欲しいと思います。

## 第7回 図書館月間を開催 平成19年11月

附属図書館では、地域に根ざした生涯学習の拠点としてサービスを提供するという目標のもと、毎年11月を図書館月間としてイベントを開催している。今年は「佐賀の人づくり」をテーマに6つの講演会と、貴重資料の展示会がおこなわれた。

佐賀には、幕末から明治時代にかけて科学技術の発展に貢献した人物が多い。講演では、講演者それぞれの観点から、さまざまな個性的な人物像について述べられ、全体を通して大変有意義な講演となった。また、今回は広く一般の方にも参加していただくために、初めての試みとして佐賀市立図書館のホールでも講演がおこなわれた。

### ■ 講演会 1 ■

日時 11月14日(水) 13:30 -

会場 佐賀大学附属図書館 4階会議室

#### 「江戸時代佐賀藩の教育 - 文武課業法を中心として -」

生馬寛信氏 (佐賀大学文化教育学部教授)



佐賀藩は全国屈指の教育藩だったといわれている。生馬氏は、佐賀藩と多久領でおこなわれていた「文武課業法」と呼ばれる大変厳格な教育法について話された。これは、身分に応じて文武両道のカリキュラムが設定しており、達成できないと懲罰があったという。そのほか、古賀精里が創設した藩校である弘道館について、また、多久領の士庶の学校である東原精舎についての歴史や、大隈重信邸の写真を交えて、副島種臣、江藤新平、大隈重信の勉学の様子などを語られた。佐賀藩の教育は、様々な分野で近代日本の大事な礎を築いたといえよう。

### ■ 講演会 2 ■

日時 11月14日(水) 15:00 -

会場 佐賀大学附属図書館 4階会議室

#### 「明治初期に高度情報化社会を予見した佐賀の偉人、志田林三郎の生涯」

信太克規氏 (佐賀大学理工学部教授)



電気工学の創始者といわれる志田林三郎の生涯について、信太氏が実際に訪れた林三郎の故郷や、留学先のグラスゴーの写真を交えながら講演された。その中でも、特に、林三郎が明治の初期に「100年後どんな世の中になるか」と予見し、現在のラジオやテレビ、携帯電話の誕生を予期していたのが興味深い。そういった彼の先見性は、先天的な能力の高さだけでなく、成長期の故郷の精神風土、恩師であるエアトンやケルビン卿などの人との出会い、明治初期という時代背景などが関わっていると信太氏は述べた。

■ 講演会 3 ■

日時 11月17日(土) 13:30 -

会場 佐賀市立図書館 多目的ホール

「佐賀のひとづくりと遊学」

青木歳幸氏 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)



青木氏は、佐賀藩でのひとづくり、特に医師の養成に関して何人かの著名な人物の経歴、江戸・長崎での遊学、その後の功績などをあげながら話をされた。1851年(寛永四年)には医業免礼姓名簿がつけられ、医師試験をうけて認められれば免状が与えられるという制度が始まった。これは、後の医師国家試験制度へと発展した。いわば、現代医師養成制度の最初の制度化が佐賀藩でおこなわれたといえる。他にも、幕末期に佐賀藩が積極的に起こった海外交流の話がされ、最後に佐賀大学附属図書館所蔵の関連資料が紹介された。

■ 講演会 4 ■

日時 11月17日(土) 13:30 -

会場 佐賀市立図書館 多目的ホール

「日本初の女性化学者 黒田チカ博士」

堀 勇治氏 (佐賀大学理工学部助教)



黒田チカは、佐賀師範学校女子部を卒業後、一時教師となり、またその後女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学)へ入学し、さらに、当時の女性の中では珍しく東北帝国大学に入学、院まで進んだという。そして日本で最初の女性理学士となった。英国オックスフォード大学へ留学し、帰国後には、紅花の色素の研究をはじめ、昭和34年に「天然色素の有機化学的研究」で紫綬褒章を受章した。堀氏は、こういった彼女の成功は、先進的な指導者の力だけでなく、彼女自身の優れた才能と温和で寛容な人柄に大いに関係しているであろう、と締めくくった。

■ 講演会 5 ■

日時 11月22日(木) 14:00 -

会場 佐賀大学附属図書館 4階会議室

「幕末佐賀藩の科学技術」

長野 暉氏 (佐賀大学名誉教授)



日本では、江戸時代、鉄鋳物を生産するためにこしき炉やたたら炉が使われてきた。それが、幕末になると国防のために大砲の鋳造が必要となってきた。大砲鋳造は大型の反射炉がないとつくることできない。そういったなか、西洋の反射炉に関する書物を翻訳し、それをもとに日本で最初に反射炉をつくったのは佐賀藩である。そして、長崎の神之島・四郎島の間を築堤し、砲台をつくり、外国船からの攻撃に備えたという。残念ながら、当時の反射炉は現存しないが、講演では、現存する韮山反射炉(静岡県)や品川台場(東京・品川の砲台)の写真などが紹介された。

## ■ 講演会 6 ■

日時 11月22日(木) 15:30 -

会場 佐賀大学附属図書館 4階会議室

### 「鉄及びマニユファクチャリングへの挑戦」

小川博司氏 (佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター教授)



製鉄やその利用 (マニユファクチャリング) に関して、幕末時の日本とヨーロッパを比較しながら、写真や図を交えて講演された。当時、日本では、刀剣・農具・日用品などにしか鉄が使われていなかったが、ヨーロッパではすでに鉄橋や蒸気機関などの工業製品がつくられ、大量生産ができる技術ももっていたという。講演は、佐賀藩が反射炉を建設するために参考にした本の著者ヒュゲーニンの経歴、蒸気機関の発明者トレビシックが製作した蒸気機関車ペナダレン号の話、さらには東洋のエジソンと呼ばれた発明家田中久重の話など多岐に及んだ。そして、小川氏は、これからの日本の科学技術を考えていく上で、古いものを研究し生かしていくことが大切だ、と述べた。

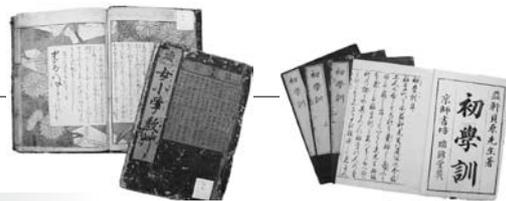
図書館ホームページ (<http://www.lib.saga-u.ac.jp/>) で各講演の試聴ができます。  
また、図書館マルチメディアルームで、講演のDVD をご覧いただけます (学内のみ)。

## ■ 展示会 ■

### 江戸時代の教育資料

— 小城鍋島文庫の女子教育資料を中心に —

期間 11月14日 (水) ~ 11月21日 (水) 会場 佐賀大学附属図書館エントランスホール



図書館貴重資料小城鍋島文庫の中から、江戸時代の女子教育資料や今回の講演会に関連する資料など古文書13点の展示がおこなわれた。儒学の経典「四書」のうちの『大学』『論語』をもとにつくられた資料や、儒教基本経典である「五経」が展示された。また、女性のしつけについてや女性が守るべきことが書かれた教訓書、女性手紙の代表的文例集、そのほか育児書や産育書など、絵入りでわかりやすく解説された女子教育資料は、今見ても大変興味深いものばかりであった。



展示会場の様子

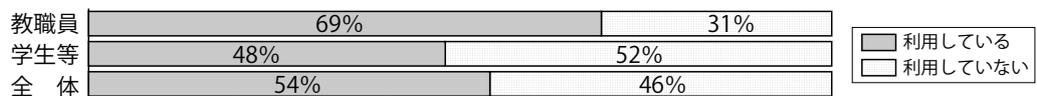
## ＜文献データベース等アンケート結果報告＞

附属図書館では、本学の教職員及び学生等のニーズに合った文献データベース等（百科事典・新聞記事データベースを含む。）のサービスを提供するため、利用状況やご意見を把握させていただく目的でアンケートを実施しました。以下、アンケート結果の概要について報告します。

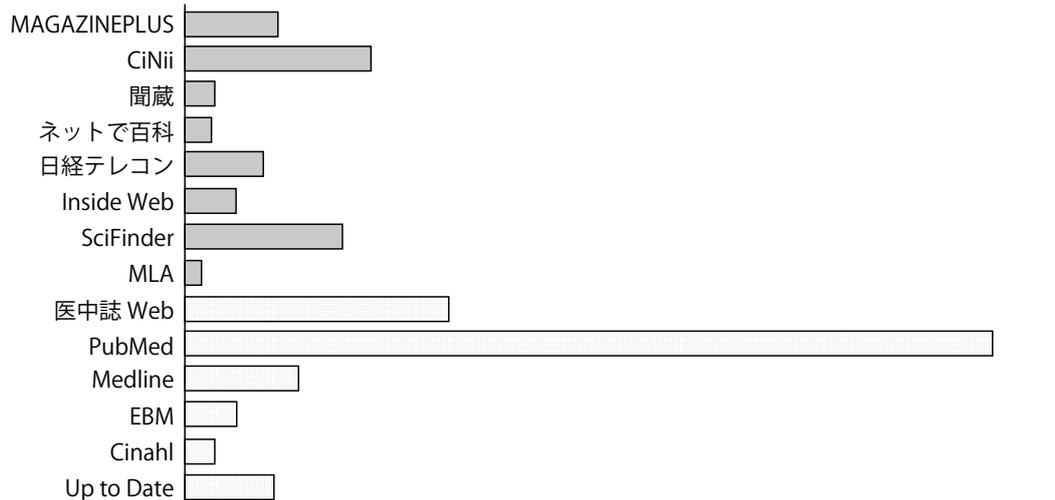
なお、アンケート結果の全体は図書館ホームページ（<http://www.lib.saga-u.ac.jp/>）に掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

- 調査期間 平成19年11月12日～11月22日
- 回収数・回収率 回収数 1,259 回収率 34%

### 1. 文献データベース等の利用状況

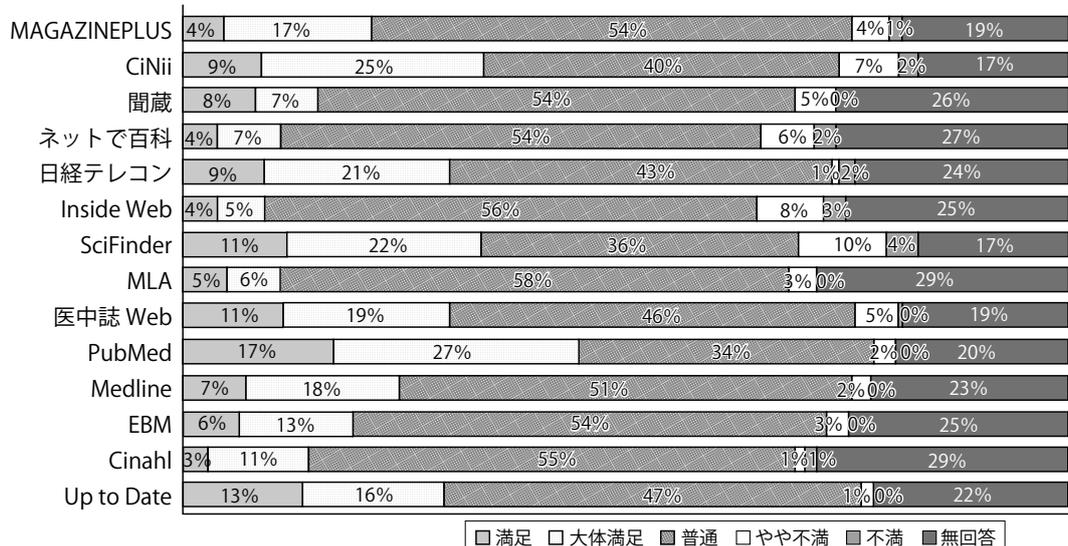


### 2. データベース等の利用状況（利用している方に対して）

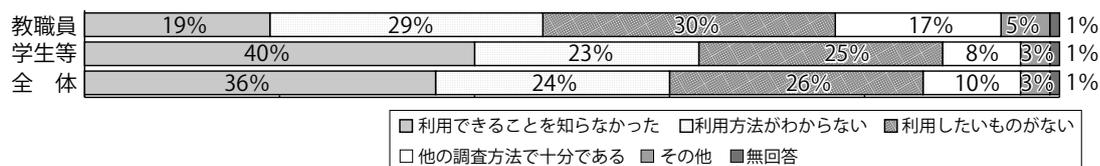


\* 利用頻度の回答で、「毎日」を実数×365、「週に2, 3回」を実数×52×3、「月に2, 3回」を実数×12×3、「年に2, 3回」を実数×3、「その他」を実数として指数化したグラフ

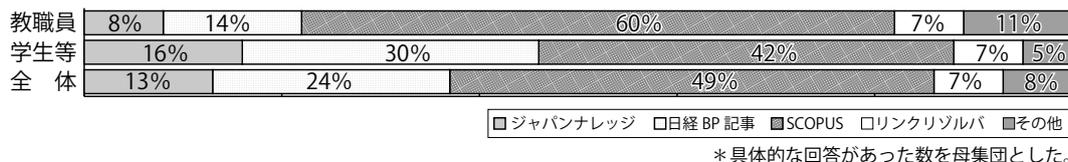
### 3. データベース等の満足度（利用している方に対して）



## 3. 文献データベース等を利用しない理由（利用していない方に対して）



## 4. 今後導入が必要なデータベース等



## 5. 受益者負担について（教職員の方に対して）



\* このアンケート結果は、附属図書館選書専門委員会における「平成20年度以降の文献データベース等の導入について」の審議のための資料として使用し、平成20年度以降の図書館経費による導入データベース等を以下のとおり決定しました。

| データベース名                        | 収録内容等                         |
|--------------------------------|-------------------------------|
| MAGAZINEPLUS                   | 雑誌記事索引及び書籍所収の論文等              |
| CiNii                          | 雑誌記事索引及び一部学協会誌等の電子ジャーナル       |
| 聞蔵                             | 朝日新聞記事                        |
| 日経テレコン21                       | 日本経済新聞社提供の新聞記事、企業情報等          |
| Inside Web                     | British Library提供の全分野にわたる外国文献 |
| SciFinder Scholar              | 化学分野の文献、化学物質情報等               |
| MLA International Bibliography | 文学、言語学分野の文献                   |
| 日経BP記事検索                       | 日経BP社等刊行誌約40タイトルの記事           |

\* SciFinder Scholarは複数部局との共同導入

末尾ながら、今回のアンケート実施に際し、多くの方々にご協力いただき大変ありがとうございました。望外な回収率をあげることができ、利用者の皆様の利用状況等を反映したアンケートにすることができたと考えています。紙面ではございますが、御礼申し上げます。

## ＜佐賀大学機関リポジトリの充実を目指して＞

佐賀大学機関リポジトリが平成18年度に紀要論文、学位論文、貴重書、植物遺伝資源情報、シラバス等を搭載して試験公開したことは前号（No.31）で紹介しました。19年度は大学の研究業績データベースとの連携機能を持たせ、学術論文2,000件、著書500件のメタデータの移行登録を行いました。また、科研費報告書300件の登録作業も進めています。

機関リポジトリの意義の一つは、大学の学術生産物をオープンアクセスで広く情報発信することにあります。平成20年2月に開催された九州地区機関リポジトリワークショップでは、研究者から機関リポジトリに搭載した論文について外国の研究者から反応があり、効果を実感したとの紹介がありました。この事例のように佐賀大学機関リポジトリが成果を上げていくためには、研究者の協力のもとにメタデータだけでなく1次情報を積極的に登録・公開していく必要があります。

そのためには、機関リポジトリの運用指針を整備した上で、研究者に対しその意義・効果についての説明会等を実施し、理解と協力を求めていく必要があります。また、図書館内においても機関

リポジトリ運用のための体制を整備していく必要があります。その意味では、佐賀大学は他大学にやや後れをとっていると言えます。

大学の教育研究にとって図書館が必須の施設である（と確信する！）ように、機関リポジトリも大学の存在意義を示すための必須の機能であると言えます。大学の情報発信、説明責任が求められる今、図書館が中心となって機関リポジトリを有効に活用して大学の学術研究の成果を発信していきたいと考えています。

＜佐賀大学機関リポジトリ ホームページ＞  
<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/>



### ＜佐賀大学機関リポジトリ 概念図＞



## ○ 受入資料紹介 ○

## ● 学生用図書

平成18年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入しました（冊数はいずれも非図書資料の点数を含む）。

|         |        |
|---------|--------|
| 教員推薦図書  | 1,386冊 |
| 学生希望図書  | 219冊   |
| 図書館推薦図書 | 349冊   |
| 継続購入図書  | 254冊   |

## ● 寄贈図書

## 吉塚英助

- ・学研新漢和大字典／藤堂明保, 加納喜光編 学習研究社
- ・Merriam-Webster's collegiate dictionary／Merriam-Webster Springfield
- ・生命-どのようにして存在するようになったか進化か、それとも創造か／ものみの塔聖書冊子協会
- ・聖書 新世界訳／ものみの塔聖書冊子協会
- ・圣经: 新世界译本／Watchtower Bible and Tract Society of New York
- ・あなたは地上の楽園で永遠に生きられます／ものみの塔聖書冊子協会
- ・You can live forever in paradise on earth／Watchtower Bible and Tract Society of New York
- ・My book of bible stories／Watchtower Bible and Tract Society of New York
- ・New world translation of the holy scriptures／Watchtower Bible and Tract Society of New York

## 首藤洋介

- ・パリ・コミュニケーション／ア・イ・モロク編, 高橋勝之訳 大月書店
- ・フランス革命と社会思想: 近代フランス社会思想の成立／本田喜代治 法政大学出版局
- ・フランス革命の知的起源／D.モルネ; 坂田太郎, 山田九朗監訳 勁草書房
- ・フランス革命と民衆: 共和暦二年(一七九三-九四年)のパリのサン=キュロット／アルベール・ソブール; 小井高志, 武本竹生訳 新評論
- ・佐賀縣大観／佐賀縣師範學校編 佐賀縣師範學校郷土教育研究會
- ・フランス自由主義の生成と展開: 十九世紀フランス政治思想研究／田中治男 東京大学出版会
- ・ジャコバン独裁の政治構造／井上すず 御茶の水書房
- ・フランス革命思想の研究: バーク・ゲンツ・ゲルレスをめぐって／十河佑貞 東海大学出版会
- ・フランス帝国主義研究: 一九、二〇世紀／ジャン・ブーヴィエ; 権上康男, 中原嘉子訳 御茶の水書房
- ・フランス革命と近代政治思想の転回／竹原良文編 草薙書房
- ・フランス革命の知的起源／D.モルネ; 坂田太郎, 山田九朗監訳 勁草書房
- ・フランス第三共和政史研究: パリ=コミュニヌから反戦=反ファシズム運動まで／西海太郎 中央大学出版部
- ・郷土の先覚者: 明日を拓いた佐賀の人／佐賀県教育委員会編 佐賀県教育委員会
- ・佐賀平野開発考／佐賀縣女子師範學校[編] 佐賀縣女子師範學校
- ・九州中世社会の研究／渡辺澄夫先生古稀記念事業会編 渡辺澄夫先生古稀記念事業会
- ・佐賀縣史料集成／佐賀県立図書館編; 古文書編 第10,11,12,13巻 佐賀県立図書館
- ・近代英国の起源／越智武臣 ミネルヴァ書房
- ・第十九世紀ドイツ史学史研究／千代田謙 三省堂
- ・政治と思想: 西洋史論叢: 長壽吉博士還暦記念／長博士還暦記念論文集刊行會編輯 富山房

- ・歴史における群衆：英仏民衆運動史1730～1848／ジョージ＝リューデ；古賀秀男, 志垣嘉夫, 西嶋幸右訳 法律文化社
- ・大革命前夜のフランス：経済と社会／アルベール・ソブール；山崎耕一訳 法政大学出版局
- ・アンシャン・レジーム論序説：18世紀フランスの経済と社会／赤羽裕 みすず書房
- ・フランス革命期の教育改革構想／タレイラン他；志村鏡一郎訳 明治図書出版
- ・ペルリ提督遠征記／合衆国海軍省編；大羽綾子訳 酣灯社
- ・エリュトゥラー海案内記／村川堅太郎譯 生活社
- ・古地図絵図録：佐賀県立図書館蔵／佐賀県立図書館編 佐賀県史料刊行会
- ・肥前様式論叢／尾形善郎 尾形善郎
- ・有馬一亂記
- ・日向正史郷土の光／川添重広 文華堂
- ・大村藩校「五教館」小史／松井保男 私家版 松井保男
- ・近世租税思想史／島恭彦 再版 有斐閣
- ・鍋島直正公傳／久米邦武執筆編述；中野禮四郎編纂；第1編 - 年表・索引・総目録 侯爵鍋島家編纂所
- ・肥前史研究：三好不二雄先生傘寿記念誌／三好不二雄先生傘寿記念誌刊行会
- ・French finances 1770-1795 : from business to bureaucracy／J.F. Bosher University Press
- ・The Foreign Office and foreign policy, 1898-1914／Zara S. Steiner Cambridge University Press
- ・Parliamentary government in France : revolutionary origins, 1789-1791／R.K. Gooch Cornell University Press
- ・Class, ideology, and the rights of nobles during the French Revolution／Patrice Higonnet Clarendon Press, Oxford University Press
- ・History of the French Revolution／Jules Michelet ; translated [from the French] by Charles Cocks ; edited and with an introduction by Gordon Wright University of Chicago Press
- ・Myths of Babylonia and Assyria／Donald A. Mackenzie Gresham
- ・Historical dictionary of the French Revolution, 1789-1799／Samuel F. Scott and Barry Rothaus Greenwood Press
- ・The modern liberal theory of man／Gerald F. Gaus ; Croom Helm, St. Martin's Press
- ・The underground war against revolutionary France : the missions of William Wickham, 1794-1800／Clarendon Press
- ・The Parisian Sans-culottes and the French Revolution, 1793-4／Albert Soboul Clarendon Press
- ・The Enlightenment : an interpretation／Peter Gay Weidenfeld and Nicholson
- ・The constitutions and other select documents illustrative of the history of France, 1789-1907／Frank Maloy Anderson 2. ed. Russell & Russell
- ・The enlightenment : an interpretation : the rise of modern paganism／Peter Gay Random House
- ・Provincial magistrates and revolutionary politics in France, 1789-1795／Philip Dawson Harvard University Press
- ・Les origines de la France contemporaine／H. Taine Hachette
- ・Les massacres de septembre／par G. Lenotre Perrin
- ・France : a companion to French studies／D.G. Charlton Methuen
- ・Intellectual origins of the English revolution／Christopher Hill Clarendon Press
- ・Japanese architecture／Hideto Kishida Board of Tourist Industry, Japanese Govt. Railways

(元佐賀大学教育学部教授であった故首藤助四郎様の蔵書の一部をご寄贈いただいた。)

(敬称略)



『西遊旅譚』 司馬江漢 享和3年（1803） 5冊

江戸後期の洋風画家司馬江漢（1747～1818）の江戸―長崎往復の旅日記。天明8年（1788）4月23日から寛政元年（1789）の4月13日まで、およそ1年間の旅の記録で、各地の景観、地理、風俗、民衆の姿などが多くの自筆挿画とともに生き生きと表現されている。当時の様相を知る好資料。

『蘭学逡』 藤林淳道 1冊

オランダ語入門書。稲村三伯の蘭日辞書「ハルマ和解」簡略版。「和解」が「アルス如、アルス則、アルス自、アルス時」と一語に一義をつけたのに対し、「アルス如、則、自、時」というように、一語に多義をつけたことが大きな特徴。

『和蘭産物考』 5冊 寛政10年（1798）

本資料は、オランダの地理・風俗で、とくにジャワのオランダ人の資料が多い。秋里籬島の寛政8年5月の後序があり、「親しく実見したもの」とある。

『蘭学階梯』 大槻玄沢 天明8年（1788）2冊

本資料は大槻玄沢（1757～1827）が書いた蘭学入門書。蘭学興隆のきっかけをなした書物である。本文は蘭学の始まり、蘭学を蛮夷の説とすることの不当、蘭学のススメ、オランダ語の用法等蘭学学習全般にわたって解説しており、蘭学啓蒙普及に大きく貢献した基本書である。

『和蘭薬鏡』 宇田川玄真 6冊

本資料は宇田川玄真（1769～1834）が、ドドネウスやウエイランドなどのオランダの本蔵書や薬説20余部から抄訳し、和漢の本草と比定したもの。各品の形状・効能・治験・製剤などを記している。西洋薬が入手しにくい時期の蘭学者によって、大変有益な書となった。

## 2. 大内文庫

平成15年9月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代（元禄期）から明治中期にかけての俳諧書298点445冊、俳諧書複製本23点、軸物18点、器財（文台）1点を内容とする。

大内文庫は元禄8年刊『水仙畑』・同10年刊『掃除坊主』などの古版も含むが、多くは江戸中・後期の俳書を主とする。その中には、「国書総目録」に載っていない版本60点余、注目すべき貴重な写本10数点も含まれている。また、半数近くが九州関係俳書であることが特筆される。大内文庫の特色を、九州に焦点を定めた、全国唯一の俳諧コレクションだと称しても過言ではない。

含まれる俳書は、近世中・後期を例にとると、美濃派・淡々系・花の本系など予想されるすべての俳系が網羅されている。さらに明治の旧派俳句の俳書も集められている。従って、大内文庫は、近世中・後期から明治中期にかけての俳壇の連続的推移を考察し得る資料がそろっていることになる。つまり、大内文庫の九州俳書を見ることによって、俳諧というジャンルの、近世中・後期から明治に至る史的展開をたどることが可能になる。

## ● 図書館統計 平成16年度～平成18年度 ●

### 1. 蔵書統計

①年度別蔵書冊数

単位：冊

| 年度   |      | 和書      | 洋書      | 合計      |
|------|------|---------|---------|---------|
| 16年度 | 本館   | 394,042 | 182,580 | 576,622 |
|      | 医学分館 | 59,274  | 42,606  | 101,880 |
| 17年度 | 本館   | 398,472 | 184,123 | 582,595 |
|      | 医学分館 | 60,048  | 44,141  | 104,189 |
| 18年度 | 本館   | 403,414 | 185,901 | 589,315 |
|      | 医学分館 | 61,411  | 44,864  | 106,275 |

②年度別受入冊数

単位：冊

| 年度   |      | 和書     | 洋書    | 合計     |
|------|------|--------|-------|--------|
| 16年度 | 本館   | 4,512  | 1,881 | 6,393  |
|      | 医学分館 | 1,898  | 282   | 2,180  |
| 17年度 | 本館   | 4,430  | 1,543 | 5,973  |
|      | 医学分館 | 774    | 1,535 | 2,309  |
| 18年度 | 本館   | 10,840 | 2,235 | 13,075 |
|      | 医学分館 | 1,480  | 723   | 2,203  |

③年度別雑誌所蔵種類数

単位：種

| 年度   |      | 和書    | 洋書    | 合計    |
|------|------|-------|-------|-------|
| 16年度 | 本館   | 6,160 | 2,873 | 9,033 |
|      | 医学分館 | 1,001 | 981   | 1,982 |
| 17年度 | 本館   | 6,434 | 2,925 | 9,359 |
|      | 医学分館 | 1,006 | 984   | 1,990 |
| 18年度 | 本館   | 6,442 | 2,931 | 9,373 |
|      | 医学分館 | 1,007 | 986   | 1,993 |

④年度別雑誌受入種類数

単位：種

| 年度   |      | 和書    | 洋書  | 合計    |
|------|------|-------|-----|-------|
| 16年度 | 本館   | 3,390 | 885 | 4,275 |
|      | 医学分館 | 641   | 412 | 1,053 |
| 17年度 | 本館   | 3,353 | 791 | 4,144 |
|      | 医学分館 | 637   | 354 | 991   |
| 18年度 | 本館   | 3,295 | 746 | 4,041 |
|      | 医学分館 | 629   | 329 | 958   |

### 2. 図書館資料費

単位：千円

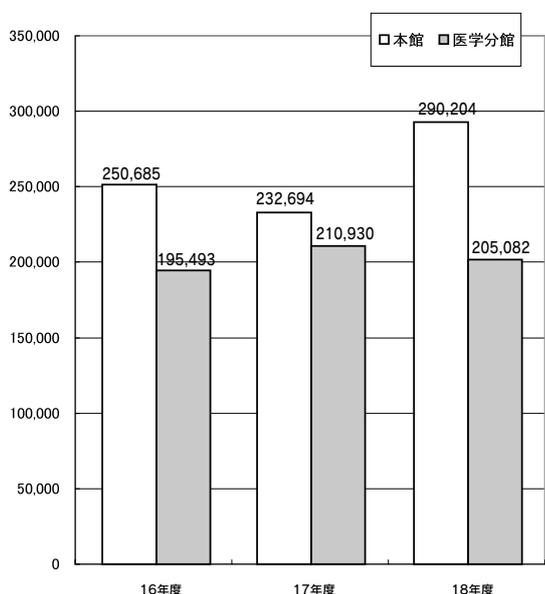
| 年度   |      | 図書館備付  |        | 研究室備付   |        | 合計      |
|------|------|--------|--------|---------|--------|---------|
|      |      | 運営経費   | その他の経費 | 運営経費    | その他の経費 |         |
| 16年度 | 本館   | 15,138 | 0      | 107,124 | 8,164  | 130,426 |
|      | 医学分館 | 56,761 | 0      | 932     | 0      | 57,693  |
| 17年度 | 本館   | 16,496 | 0      | 83,335  | 8,856  | 108,687 |
|      | 医学分館 | 56,410 | 0      | 55      | 0      | 56,465  |
| 18年度 | 本館   | 17,043 | 0      | 79,500  | 5,462  | 102,005 |
|      | 医学分館 | 38,332 | 0      | 5       | 1,500  | 39,837  |

### 3. 利用統計

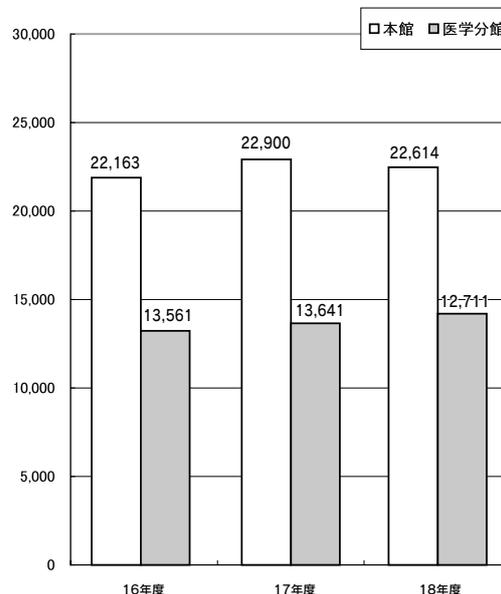
①利用対象者数 5月1日現在 単位：人

| 年度   |      | 学生    | 教職員 | 合計    |
|------|------|-------|-----|-------|
| 16年度 | 本館   | 6,467 | 765 | 7,232 |
|      | 医学分館 | 978   | 815 | 1,793 |
| 17年度 | 本館   | 6,437 | 775 | 7,212 |
|      | 医学分館 | 997   | 790 | 1,787 |
| 18年度 | 本館   | 6,444 | 786 | 7,230 |
|      | 医学分館 | 1,031 | 880 | 1,911 |

②入館者数 単位：人



③館外貸出状況 単位：冊



④学部別貸出状況 (本館)

|      | 文化教育学部  |         | 経済学部    |         | 理工学部    |         | 農学部     |         |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
|      | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) |
| 16年度 | 2,717   | 4,966   | 1,489   | 2,501   | 5,373   | 8,692   | 2,017   | 3,229   |
| 17年度 | 2,874   | 5,205   | 1,406   | 2,336   | 5,324   | 8,863   | 2,199   | 3,603   |
| 18年度 | 2,824   | 5,064   | 1,335   | 2,330   | 5,299   | 8,766   | 1,792   | 2,775   |

④学部別貸出状況 (医学分館は学科別)

|      | 医学科     |         | 看護学科    |         |
|------|---------|---------|---------|---------|
|      | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) | 貸出者数(人) | 貸出冊数(冊) |
| 16年度 | 5,158   | 7,272   | 2,405   | 3,602   |
| 17年度 | 5,535   | 7,610   | 2,285   | 3,612   |
| 18年度 | 5,340   | 7,142   | 2,022   | 3,155   |

## ⑤分野別貸出状況（本館）

単位：冊

| 年度   | 総記  | 哲学  | 歴史    | 社会科学  | 自然科学  | 工学    | 産業  | 芸術  | 語学  | 文学    | 雑誌等   |
|------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 16年度 | 523 | 519 | 1,015 | 3,718 | 7,633 | 4,153 | 776 | 933 | 578 | 1,150 | 1,165 |
| 17年度 | 529 | 542 | 975   | 3,228 | 7,321 | 4,136 | 792 | 947 | 522 | 2,258 | 1,640 |
| 18年度 | 485 | 631 | 812   | 3,476 | 7,864 | 3,694 | 785 | 990 | 595 | 1,847 | 1,435 |

## ⑤分野別貸出状況（医学分館）

|      | 一般教育図書 | 専門図書  |       |       | 雑誌等   |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|
|      |        | 基礎医学  | 臨床医学  | 看護学   |       |
| 16年度 | 675    | 1,783 | 6,156 | 1,750 | 3,197 |
| 17年度 | 612    | 1,857 | 6,090 | 2,161 | 2,921 |
| 18年度 | 717    | 1,552 | 5,787 | 2,392 | 2,263 |

## ⑥各室利用状況（本館）

| 年度   | グループ学習室（回） | 閲覧個室（回） | マルチメディアルーム（回） | リスニングルーム（回） |
|------|------------|---------|---------------|-------------|
| 16年度 | 377        | 198     | 1,122         | 205         |
| 17年度 | 466        | 292     | 923           | 187         |
| 18年度 | 591        | 312     | 929           | 171         |

・医学分館のビデオスライド室：統計なし

## 4. 相互利用の状況

## ①文献複写件数

単位：件

| 年度   |      | 依頼    | 受託    | 合計    |
|------|------|-------|-------|-------|
| 16年度 | 本館   | 1,978 | 1,046 | 3,024 |
|      | 医学分館 | 4,281 | 3,456 | 7,737 |
| 17年度 | 本館   | 2,537 | 1,153 | 3,690 |
|      | 医学分館 | 4,722 | 2,929 | 7,651 |
| 18年度 | 本館   | 3,217 | 1,020 | 4,237 |
|      | 医学分館 | 3,500 | 1,877 | 5,377 |

## ②相互貸借件数

単位：件

| 年度   |      | 依頼  | 受託  | 合計  |
|------|------|-----|-----|-----|
| 16年度 | 本館   | 437 | 242 | 679 |
|      | 医学分館 | 29  | 54  | 83  |
| 17年度 | 本館   | 468 | 239 | 707 |
|      | 医学分館 | 40  | 56  | 96  |
| 18年度 | 本館   | 463 | 264 | 727 |
|      | 医学分館 | 75  | 60  | 135 |

## 5. 情報検索の状況

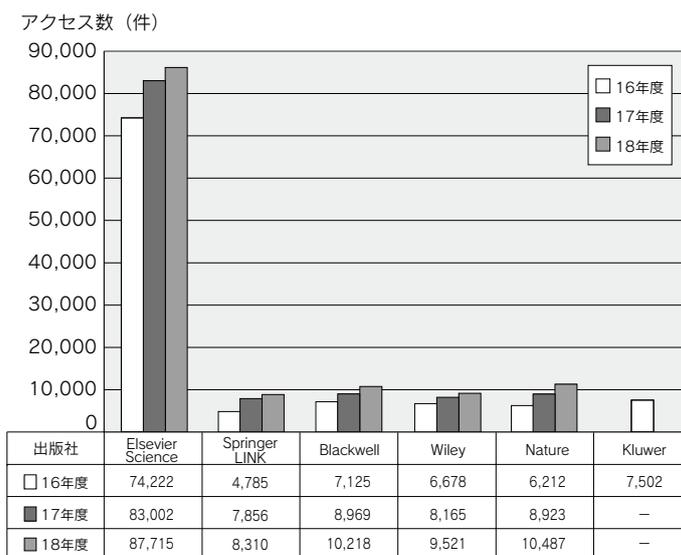
## データベース利用統計

| データベース名 | MAGAZINEPLUS | CiNii  | SCOPUS        | Ovid   | Up to Date | 医学中央雑誌  |
|---------|--------------|--------|---------------|--------|------------|---------|
| 17年度    | 7,476        | 12,422 | 2,969(742/月)  | 26,507 | 5,350      | 137,606 |
| 18年度    | 8,192        | 17,820 | 11,645(970/月) | 40,298 | 5,117      | 233,763 |
| 19年度    | 3,730        | 30,642 | 1,005(502/月)  | 37,746 | 3,939      | 192,606 |

\*平成19年度は4～12月の統計

\*SCOPUSは平成17年9月～平成19年3月及び平成19年11月～12月実施のトライアル統計

### 6. 電子ジャーナルアクセス状況



\* Kluwer は平成 17 年 2 月より Springer に統合

## 人事異動

|     | 発令年月日   | 氏 名     | 新 職 名                              | 旧 職 名                              |
|-----|---------|---------|------------------------------------|------------------------------------|
| 採 用 | 19.4.1  | 正 岡 美奈子 | 学術研究協力部情報図書館課<br>司書                | 九州大学農学部                            |
| 昇 任 | 19.4.1  | 猿 渡 啓 介 | 学術研究協力部情報図書館課<br>主任                | 学術研究協力部情報図書館課<br>事務員               |
| 退 職 | 19.6.30 | 石 丸 將 敏 |                                    | 学術研究協力部情報図書館課<br>総務系係長             |
| 配置換 | 19.7.1  | 龍 翼     | 学術研究協力部情報図書館課<br>総務系係長             | 学務部学生生活課授業料免除<br>係長                |
| 配置換 | 19.7.1  | 三 浦 聡 子 | 学術研究協力部情報図書館課<br>学術コンテンツ系 (図書) 係長  | 学術研究協力部情報図書館課<br>医学利用サービス系係長       |
| 配置換 | 19.7.1  | 福 島 正 徳 | 学術研究協力部情報図書館課<br>利用サービス系 (電子情報) 係長 | 学術研究協力部情報図書館課<br>学術コンテンツ系 (図書) 係長  |
| 配置換 | 19.7.1  | 浅 岡 宏 信 | 学術研究協力部情報図書館課<br>医学利用サービス系係長       | 学術研究協力部情報図書館課<br>利用サービス系 (電子情報) 係長 |

# 図 書 館 目 誌 (会議・研修・来客等)

## ● 平成19年 ●

- 4月19日 第37回九州地区国立大学図書館協会総会  
(当番館：九州大学附属図書館、於：福岡ガーデンパレス)
- 4月20日 第58回九州地区大学図書館協議会総会  
(当番館：九州大学附属図書館、於：福岡ガーデンパレス)
- 5月10日 附属図書館選書専門委員会 (第1回)  
「平成18年度図書費の決算等報告」他
- 5月29日 平成19年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会  
(理事館：九州工業大学図書館、於：九州工業大学附属図書館A Vホール)
- 5月31日 附属図書館運営委員会 (第1回)  
「平成18年度決算及び平成19年度予算 (案) について」他
- 6月6日 九州大学附属図書館海外研修報告会2006「於：九州大学附属図書館」
- 6月11日 附属図書館医学分館運営委員会 (第1回)  
「平成18年度資料費決算及び平成19年度資料費予算 (案) について」他
- 6月13日 九州地区国立大学間の連携に係るリポジトリ論文作成のための編集委員会  
「於：九州大学本部第一会議室」
- 6月27日 第3回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー  
「於：福岡システムL S I 総合開発センター会議室A・B」
- 6月28日 第54回国立大学図書館協会総会  
(当番館：九州大学附属図書館、於：J A Lリゾートシーホークホテル福岡)
- 7月3日 平成18年度C S I 委託事業報告交流会「於：ベルサール九段3階会議室1・2」
- 7月13日 学術情報セミナー 「於：九州大学附属図書館」
- 7月17日～18日 平成19年度国立大学法人等部課長級研修「於：学術総合センター一ツ橋記念講堂」
- 7月23日～24日 平成19年度リーダー研修「於：菱の実会館多目的ホール」
- 7月26日 平成19年度佐賀県大学図書館協議会総会  
(幹事館：佐賀女子短期大学 於：佐賀女子短期大学4号館)
- 8月1日 附属図書館医学分館運営委員会 (第2回) (メール会議)  
「学生希望図書推薦について」他
- 8月28日 平成19年度佐賀大学接遇・マナー研修 (第1回)  
「於：菱の実会館多目的室」

- 8月29日 附属図書館医学分館運営委員会（第3回）  
「共通雑誌の新規・中止の検討について」他
- 8月31日 附属図書館医学分館運営委員会（第4回）（メール会議）  
「教育・研究用推薦図書の結果について」他
- 9月4日 附属図書館運営委員会（第2回）（メール会議）  
「医学分館所蔵図書の除籍について」
- 9月4日 附属図書館選書専門委員会（第2回）（メール会議）  
「予算について」他
- 9月6日～7日 第2回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ  
パーソンセミナー「於：九州大学附属図書館新館4階会議室」
- 9月14日 平成19年度電子ジャーナル地区説明会「於：九州大学附属図書館」
- 9月14日 図書館とN I Iの集い（NII Library Forum 2007）  
「於：九州大学附属図書館視聴覚ホール」
- 9月25日～28日 平成19年度九州地区国立大学法人等係長研修「於：大分国際交流会館」
- 9月26日 平成19年度九州地区国立大学間の連携に係るリポジトリ論文作成  
のための編集委員会「於：九州大学本部第2会議室」
- 10月2日 平成19年度貴重資料・地域貢献専門委員会（第1回）  
「平成19年度における貴重資料の購入について」他
- 10月4日 附属図書館医学分館運営委員会（第5回）（メール会議）  
「学生希望図書選定について」
- 10月10日 附属図書館選書専門委員会（第3回）  
「本館学生用図書の推薦について」他
- 10月12日 第55回九州地区医学図書館協議会総会  
（当番館：福岡歯科大学情報図書館 於：福岡ガーデンパレス）
- 10月18日～19日 平成19年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議  
（当番館：九州大学附属図書館）
- 10月19日 平成19年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区  
研究会（於：九州龍谷短期大学図書館閲覧室）
- 10月24日 平成19年度佐賀大学接遇・マナー研修（第2回）  
「於：菱の実会館多目的室」
- 10月26日 附属図書館運営委員会（第3回）  
「自己点検評価について」他

- 11月7日～9日 第9回図書館総合展 「於：パシフィコ横浜」
- 11月14日～22日 図書館月間講演会「於：附属図書館会議室及び佐賀市立図書館多目的ホール」  
『江戸時代佐賀藩の教育－文武課業法を中心として－』  
講師 生馬 寛信氏（佐賀大学文化教育学部教授）  
『明治初期に高度情報化社会を予見した佐賀の偉人、志田林三郎の生涯』  
講師 信太 克規氏（佐賀大学工学部教授）  
『佐賀のひとづくりと遊学』  
講師 青木 歳幸氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授）  
『日本初の女性化学者 黒田チカ博士』  
講師 堀 勇治氏（佐賀大学工学部助教）  
『幕末佐賀藩の科学技術』  
講師 長野 暹氏（佐賀大学名誉教授）  
『鉄及びマニュファクチャリングへの挑戦』  
講師 小川 博司氏（佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター教授）
- 11月16日 第16回九州地区医学図書館員セミナー（於：福岡大学図書館医学図書館分館）
- 11月20日 平成19年度九州地区国立大学間連携に係るリポジトリ論文作成のための編集委員会（第3回）  
（於：九州大学本部第5会議室）
- 11月29日 平成19年度九州地区国立大学附属図書館館長、事務（部・課）長会議等  
（於：九州大学附属図書館）
- 11月30日 附属図書館医学分館運営委員会（第6回）（メール会議）  
「第2回 教育・研究用推薦図書の推薦結果について」
- 12月5日 附属図書館選書専門委員会（第4回）（メール会議）  
「本館学生用図書（教員推薦図書）の購入について」
- 12月18日～20日 平成19年度図書館等職員著作権実務講習会（於：福岡市教育センター）
- 12月28日 第9回図書館総合展 「於：パシフィコ横浜」 報告会（於：附属図書館会議室）

●平成20年●

- 1月21日 附属図書館選書専門委員会（第5回）（メール会議）  
「本館学生用図書（教員推薦図書）の追加購入について」
- 2月13日 平成19年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会  
（於：西九州大学事務局大会議室）
- 2月21日 九州地区機関リポジトリ・ワークショップ：文系研究成果の情報発信に向けて  
（於：九州大学 箱崎・工学部大講義室）
- 2月22日 附属図書館選書専門委員会（第6回）  
「平成20年度以降の文献データベース等の購入について」



---

**ひかり野** 佐賀大学附属図書館報 No.32 2008年3月  
編集発行 佐賀大学附属図書館 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL (0952) 28-8902 FAX (0952) 28-8909  
ホームページアドレス <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>  
印刷 株式会社 三光

---